



役割交換書簡法（ロールレタリング）

今日のご時世は本当に「カンにさわること」や「シャクにさわること」を抱えている人々が多いことを感じます。子どもたちの言動にもそれを感じることがあります。あるアンケート調査によると日常生活でストレスを感じている人の割合は男女ともに8割を超えていると言います。これらのストレスが高じるとキレたり、さらにエスカレートすると犯罪へとつながり、少年の場合は少年院へ送られることがあります。少年院ではこれらの少年に二つの治療を施し、更正させていると聞きます。

一つは陶芸などの物作りであり、もう一つは手紙を身近な人に書かせるという方法だそうです。この手紙を書く方法ですが、この手紙は実際には投函されず、手紙を受け取った相手になって返事も自分で書くのです。この返事は徹底的に相手の気持ちや立場になって書くことが条件となっています。そうするといつのまにか自分を見つめ直す方向へと向かい、半数以上の少年が1年以内に更正するそうです。

この手法を「役割交換書簡法」（ロールレタリング）と言うそうですが、今まで気付かなかった自分の気持ちや相手の気持ちに対しての「気づき」を養い、書くことにより、考えや気持ちを明確にし、自分と他人それぞれからの視点で人間関係を客観的に見るができるようになる。そして、相手の立場になることで相手の事を受け入れる気持ちを持たせ、自分の身勝手な考え方や気持ちに気づくということを目的としているそうです。

このことは「かんしゃく（癩癪）」から「く」という曲がった字を追い出し、「かんしゃ（感謝）」に意識を変えていくことなのかもしれません。これからの時代を生きていく本校の児童にも相手の立場に立つこと、感謝することの大切さに気づかせ、行動できるように根気強く指導していきたいと思います。